



発行日：平成25年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第4回川の地域部会、第12回川部会WGを開催しました！

8月26日に開催された第4回川の地域部会、第12回川部会WGでは、役員の変更を行うとともに、家下川・承水溝・長池の段差解消及び水源の確保の方法について、活発な意見交換がなされました。

日時：平成25年8月26日（月）18:00～20:00
会議場所：豊田市職員会館2階 第1会議室
参加者：19名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 第4回川の地域部会にて、役員の変更を行いました。



第4回川の地域部会にて、座長に愛知工業大学の内田教授、副座長に大同大学の鷲見准教授が改選されました。また、新たに、名城大学の溝口准教授が、学識経験者として選出されました。



2. 家下川・承水溝・長池の段差解消・水源確保の方法を話し合いました。



- 家下川—承水溝—長池の水位やゲート敷高等の高低差について確認し、水位を確保する方法と水深を確保する方法の2つをバランスよく行っていく必要があることを確認しました。
- 水源の確保にあたっては、周辺農地の地下水調査や、湧き水の活用、下水道管きょ・用水路の活用などの提案がありました。
- 土地改良区が実施する承水溝の浚渫（深さ）への提案を、行っていくことを確認しました。
※話し合い中のご意見は、裏面に記載しています。



3. 今年度の矢作川の実施事業について内容確認を行いました。



- 安永川改修事業については、第9回WGでの意見を踏まえ、一部コンクリート護岸への覆土を行うことを報告しました。
- 度合地区の護岸についても第9回WGでの意見を踏まえ、捨石の規模縮小、工事延長の縮小を行うことを報告しました。
- 樹木処理工事については、すべての区間を伐開するのではなく、懇談会メンバーとの現地確認を行いながら進めていくことを報告しました。
- 幸町護岸については、柳技工やそだ沈床の活用提案が、WGメンバーから出され、事務局で対応を考えることになりました。



4. 流域一体化の取組みについても話し合いを行いました。



- 山部会から「山村再生担い手づくり事例集」の作成を、海部会から「ゴミ・流木調査」への参加依頼がありました。
- 第6回いい川・いい川づくりワークショップへの参加について、事務局より提案を行い、川部会としては、参加の方向で考えていくことを確認しました。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

鷲見先生からの論点

- 承水溝の水位は家下川自然ゲート敷高(16.8m)が水深を決めている。
- 長池は、宗定川自然ゲート(敷高17.4m)により、流れがつながるかどうかが決まる。
- 宗定川の流量がないことも問題点の1つである。

(1) 家下川ー承水溝ー長池の高低差について

- ・家下川自然ゲート敷高は、承水溝の平水位で決まっているのではないかと。平常時には、家下川に流れて、洪水時には、ゲートで家下川の流れを食い止める形だと思う(本守)。
- ・宗定川自然ゲート敷高は、公園管理者が水面を確保するために決めたのではないかと(本守)。
- ・承水溝と長池の水位はどちらの方が高いのか(光岡)。> 調査時は長池の方が高かった(鷲見)。/通常はかなり低い水位である(阿部)。
- ・長池には、地下水が入っているのではないかと(本守)。> 地下水に支配されているのか、地下水が作用しているのか分からない。例えば、宗定川が地下水の最後の境界になっているかもしれないので、場合によっては、周辺農地の地下水調査をすることも必要(鷲見)。
- ・自宅近くでも手掘りで4m掘ったら、良い水が出たところもある(阿部)。

(2) 水源の確保について

- ・矢作川橋下流の土地改良区の資材置き場になっているところには湧水が出ている(阿部)。
- ・下水道マップで示されているのが汚水か雨水かを確認してほしい。雨水だとすれば将来的なバイパスとしても使うことが可能かもしれない(鷲見)。
- ・矢作川橋上流の神星工業付近に常時地下水が出ている場所がある(阿部)。> 公文御用水と呼ばれ、下水の管きよに落ちているようだ(西原)。
- ・公文御用水の横を流れる水路は、宗定川とつながっているのか(鷲見)。> 別の目的で作られた水路であり、つながっていないと思う(阿部)。
- ・公文御用水がどこに流れているのか。また横を流れる水路はどこにつながっているのかを確認してほしい(鷲見)。
- ・公文御用水を宗定川に流したら問題があるのかも市の感触を教えてください(小澤)。

(3) 長池の水位設定について

- ・承水溝の平水位は17.2m程度であり、ポンプ場のところで水位データを取っているようだ(西原)。> 長池が承水溝とつながるためには、宗定川自然ゲートの高さを17.2mより下げなければならない(鷲見)。
- ・宗定川の流量がないので長池の水位を高くする議論はできない。低くする場合には、ある程度、ゲートを深くまで下げておいて、仮止めの板を入れる方がいいのではないかと。その場合の最低水位はどれくらい必要かと(鷲見)。> 冬越しをする場所として1mくらいは必要。また、上流に向かって1部分でも水路のような深いところがあればよい(阿部)。
- ・家下川との関係で見ると、敷高で30cm程度あるので、水位を上げるだけあれば堰上げをすれば対応できる。一方、水深を確保するためには、浚渫をする必要があるがどれくらいすればいいかが課題である(鷲見)。> 現状の水深は、20cmくらいであるが、夏でも50~60cmはあった方がよい。ただし、5年前に承水溝の水位を60cm堰上げしたことがあるが、勾配がないため、かなり上流まで影響がでた。(阿部)。
- ・ポンプ場のところに水位記録があるのであれば3年程度は提供してほしい(本守)。
- ・承水溝の高さを段階的に変えて、その影響を見たらどうか(菅原)。> すぐにはできないが、整理していきたいと思う(鷲見)。

(4) 土地改良区への提案について

- ・平水位が17.2mであれば、16mくらいの濡筋を掘ってほしいというのはどうか(内田)。> ここでは時間がないので、当面は、それぞれの呼びかけに対し、アクションを起こせる人が起こしていくという方法で取り組んでいきたいかどうか(鷲見)。
- ・土地改良区へは、状況を確認しておく(阿部)。



今後の川部会 WG の予定

- 第13回(地先モデル) : 平成25年9月22日(日) 現地のみ
- 第14回(本川モデル) : 平成25年10月18日(金) 現地+話し合い
- 第15回(家下川モデル) : 平成25年11月26日(火) 話し合い

